



「コロナ退散願ひ福豆煎り」
四季の部 銅賞 日野市 羽賀 道行

山 報

高幡不動尊

世界人口八十億

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田 純一

「十一月十五日に世界の人口が八十億に達した」とのニュースに接しました。

私が生まれた頃の一九五〇年には二十五億でしたから、それから三倍強も増えたことになります。ただ徐々に増加のペースは緩やかとなっており、国連の予測によると二〇八〇年代に一〇四億人をピークに減少に転ずることです。

このような人口の増加は、医療の進歩や衛生環境の改善により、乳幼児の死亡率が低下したことなどが理由として挙げられています。それは歓迎すべきことではありますが、一方で食料不足や貧困、教育機会の格差、大気・土壌・海洋の汚染、地球温暖化、そしてエネルギーなど、多くの問題が私たちに突きつけられているのが現実です。

さて、二月十五日はお釈迦さまがお亡くなりになった日です。当山では『仏遺教経』などをお唱えして、そのご遺徳を偲ぶ《常樂会》（涅槃会とも）と称される法会を大日堂で営んでいます。『仏遺教経』とは、お釈迦さまが今まさに涅槃に入ろうとしているとき、わたしたちのために遺された最後の教えが説かれているお経です。そこでその内容の一部を以下に紹介いたします。

多欲の人は多く利を求むるが故に、苦惱また多し。少欲の人は求むること無く、欲無ければ、すなわちこの患い無し。

もし諸の苦惱を脱れんとおもわば、まさに知足を觀ずべし。知足の法はすなわちこれ富樂安穩のところなり。足るを知らざる者は富めりといえども、しかも貧し。足るを知る人は貧しといえども、しかも富めり。

さきに示した人口増大にともなう多くの問題は、一見すると克服することが困難のように感じられますが、よく知られたこの《少欲知足》の教えを、ひとりひとりが実践することにより、人類の未来が悲劇的な結末を迎えることなく、より良い方向へと必ず導いてくれるものと信じています。

この冬もまた、新型コロナウイルスの波が来るようです。皆さまにおかれは、どうかお体を大事にされ、新しい年を元氣にお迎えくださるようお願い致します。

お不動さまの心——(一一九)

現代の世相から (79) 廣 澤 隆 之

勤めをやめてからは病院に行くほかにはあまり外出をしなくなりしました。それでも用向きがあつてたまには都心に出ることもありましたが、新型コロナウイルスの蔓延し始めたころから、外出はめっきり少なくなりしました。毎日が山寺に籠った生活になりました。檀家の方や教え子が訪ねてきて話をする程度です。から、ほとんど世の中に接していないことになりました。

元来が一人でいることに慣れているので、世間から切り離されたといった寂しさを感じることもありませんし、むしろ周りの景色に飽きることなく心を寄せることができるのは嬉しいことです。病気を抱えているので晴れた日に畑を耕すというわけにはいきませんが、気に入った本を繙いたり、根を詰めて勉強したりといったことで、心地よい疲れを感じることもささやかな幸せだと思います。

それにしても、世間から離れて暮らしていると、逆に世間という現実には自分はどうのようにつながっているのか、考えてしまうこともあります。訪ねて来た

人との会話も世間とのつながりでしょう。あるいは新聞やテレビを見たり、インターネットでさまざまな情報に接したりするのも、世間とのつながりといえるかもしれません。しかし、せ

んじ詰めれば食事をするのははじめ、さまざまな消費活動をしなから暮らしているのですから、生活そのものは世間と切り離されているわけではないのです。しかしこのように食料や少しばかりの雑貨などを買っているも、それで世間とつながっているという実感はありませんし、社会の現実には接しているという思いもありません。

このようなことをとぎれとぎれに日々考えていますと、はたして世間の現実とはいったい何なのかを改めて考えさせられます。そして理屈をこねて考えれば、人間の心の働きは現実と向き合っているのか、それとも現実から離れてしまうのかといった疑問がいつも頭に浮かんできます。

このような思いでいるとき、コロナ禍で家に引きこもってコンピュータに向かい合っている

時間が多くなった人たちのことも想像してみました。例えば自宅にいて会社の仕事をする、いわゆるリモートワークに従事している人にとって会社勤めの現実感はどうのように変化したのでしょうか。リモートワークによって通勤時間がなくなり、それだけ自分のやりたいことができるようになった、家族と過ごす時間が増えたという肯定的な意見も多いようです。

そうであるとするれば、今までの満員電車に乗って会社に出かけ、帰りには会社の仲間と居酒屋に寄り、深夜に帰宅していたサラリーマンの現実とはいったい何だったのでしょうか。



像 立 王 明 不動
坂 本 雅 城

への活力を蓄える場所でもあります。しかしそこに見られる日本的会社勤めの現実には夢や幻のようなものなのでしょうか。政府や東京都の施策発表にはこの哲学的な問いの答えをうかがい知ることができませんでした。

さてテレワークには仕事をしているという生活実感はあるでしょうが、コンピュータ画面の中で自己充足をするメタバースの場合はどうなのでしょう。メタバースとはコンピュータ

画面に映し出される三次元の仮想空間のことです。例えば、巨大なインターネットの通販の世界では、私たちは画像と文字情報によって商品を選択し、買入物をします。そこでは世間の現実を感じられません。ところがメタバースの三次元世界では、その大量の通販の情報が実際の商店街という仮想空間になります。その画面に自分の分身(アバター)を入れて、お店の人と話をしながら買い物します。そして町中でばったり友達に会って近くの喫茶店で会話を楽し

むこともできます。そこはもう一人の自分が生活する場所となります。さらにこの商店街に改良を加え、みんなで相談してよりよい町作りをすることもできます。また商店街だけでなく、気に入った自然の景観を守る活動を仲間と行なうこともできます。

この現実世界で生きる実感を失った人たちも、これからはこういったメタバースの世界でも一人の自分の生きがいを見つけている者も出てくるかもしれません。しかしこの世界はコンピュータ画面を

廣澤隆之先生のプロフィール

● 大正大学名誉教授

● 浄福寺御住職

ご 奉 納 御 礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。
(敬称をすべて省略させていただきます)

境内整備緑化資金

寄進者芳名

(令和四年八月一日～十月三十一日)

匿 名

世田谷区 関 根 正 人
多摩市 吉 井 香
昭島市 中 森 文 子
彦根市 西 澤 政 男

大提灯奉納者芳名

(令和四年八月一日～十月三十一日)

中野区 黒 澤 功 記
中野区 黒 澤 功 栄
多摩市 勝又鉄筋工業株式会社
日野市 千 寿 庵
日野市 下 田 孝 治
日野市 水 島 悦 子
福生市 福栄講 秋山充典
昭島市 高幡不動ござれ市

幟旗奉納者芳名

(令和四年八月一日～十月三十一日)

世田谷区

RYU・ブレインズ合同会社

中野区 山 本 民 子
府中市 渡 邊 美 代
府中市 寺 田 三 知 代
府中市 (株)アルペロプロ
立川市 大 森 光 明
二 本 日 野 市 安 川 武 雄
八王子市 木 村 茂 代
相模原市 秋 山 直 子
相模原市 水 希

一、品名 土間ぼうき 三本

奉納者

日野市 高 橋 厚 子

一、品名 マスク(手作り)

奉納者

国立市 佐 藤 ふじ子

〓 献花のおすすめ〓

お 花 講 講 員 の 募 集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。毎年秋季大祭大般若会(九月二十八日)に御招待(法話・大般若会参加・お護摩札授与・精進料理接待)致します。大勢様ご入講下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 高幡山お花講
一、会 費 一ヶ月 五〇〇円
※入講は随時承っております。
ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、萬燈会・常楽会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 遍照講高幡山支部
一、参加資格 どなたでもご参加いただけます
一、指 導 密厳流遍照講師範
一、会 費 一ヶ月 三、〇〇〇円
(但し、鈴・鉦などの道具は別費)

一、稽古日時 月二・三回 午前十時～十二時
問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」

電話 〇四二―五九一―〇〇三二



ち かい 給 い し

御慈悲の

光は今に

顕然なり

南無大師遍照尊
南無大師遍照尊
南無大師遍照尊

「弘法大師誓願和讃」



高幡不動尊 フォトニュース

萬燈会経木塔婆供養 11/23



七五三着付け直〜装道きもの学院のご奉仕 11/3



布施宛下の御垂示〜先々代秋山和上三十三回忌 9/8



今年は不動堂で御修行〜七五三祈願 11/5



「甲乙付け難いですね」菊の審査 11/5



両手を合わせて～得度式 10/12



秋季大祭～大般若転読法要 9/28



サザエさんも参加～日野防犯協会のパレード 11/16



牧宥恵先生の仏画教室 11/11



茶筌供養 10/16



遍照講習会～佐竹義文先生 11/11



警視庁鑑識課法要 11/5



五重塔地下ホールにて 歌手・石原まさしさんのライブ中継 11/11

年末・正月・初不動・節分のご案内

◆十二月

○11日(日) フリーマーケット

○13日(火) 煤払い(午前9時)

堂塔や仏さまの一年の煤を山内僧侶達が払います。

○15日(木) お焚き上げ(午前9時)

○18日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(水) 月例写経会(午後1時30分) 法話 山内僧侶

○22日(木) 冬至星まつり(午後5時・於不動堂)

星曼荼羅に来年の厄除・開運を祈る行事です。

祈願終了後、冬至うどんの接待があります。

○24日(土) 千体地藏尊月例法要(午後2時) 法話 山内僧侶

○28日(水) 納めの不動尊・歳の市

お焚き上げ(午前6時・9時)

古い護摩札・お守り・だるま等を納め、一年の無事

を感謝し、来年の安全を祈ります。

○31日(土) 大晦日・除夜の鐘供養

先着一〇八組の方に無料で撞いていただきます。

◆一月

○元旦・2日・3日

元朝祈願大護摩修行

元旦は午前0時、2日・3日は午前6時から大護摩

修行。尚2月11日までの護摩修行は特別の時間帯に

なっておりますのでご注意ください。

自動車の交通安全祈願

元旦は午前0時から午後6時まで、

2日・3日は午前6時から午後6時まで。

○元旦・7日 日野七福神めぐり(朱印受付)

○8日(日) フリーマーケット

○15日(日) 厄除牛王宝印々可(於不動堂)

弘法大師御作と伝わる秘印のお加持が受けられます。

息災延命・頭痛除けの靈験が知られています。

お焚き上げ(午前6時・9時)

日野七福神めぐりのご案内

新春恒例となりました日野七福神めぐりを左記の通り実施致しますので皆様方お誘い合わせてご参詣下さい。

尚、ご朱印につきましては『日野七福神めぐり色紙』をおすすめ致します。

記

一、実施期間 令和五年一月一日～七日

二、ご朱印受付時間 午前九時～午後四時

三、七福神色紙 一枚 三〇〇円也(各寺院にあります)

一、ご朱印料 一印 三〇〇円也

※実施期間・時間にはくれぐれもご注意ください。

○布袋尊 宗印寺(平山)

京王線平山城址公園駅より徒歩五分

○大黒天 善生寺(豊田)

京王線南平駅より徒歩十五分

○寿老尊 延命寺(川辺堀之内)

京王線南平駅より徒歩二十分

○弁財天 高幡不動尊(高幡)

京王線・多摩都市モノレール

高幡不動駅より徒歩三～五分

○毘沙門天 安養寺(万願寺)

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

○福祿寿 石田寺(石田)

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

○恵比寿天 真照寺(落川)

京王線百草園駅より徒歩三分



◎冬至星まつり

当山では、毎年冬至の晩に不動明王様の御宝前にて来年の当星を供養し、皆様の無病息災と厄除開運をご祈願いたしております。どうぞお申込みいただき良い年をお迎え下さい。

一、星祭料

金一、〇〇〇円也

一、星祭日

十二月二十二日

午後五時

※お申込み頂いたお礼はすべて郵送させていただきます。

.....

◎日野七福神めぐり色紙

七ヶ寺めぐると記念品をお渡しします。さらに、七年分の色紙を集めると記念湯呑を贈呈。



ござれ市（がらくた市）

○21日（土）月例写経会（午後1時30分）法話 山内僧侶

○24日（火）千体地藏尊月例法要（午後2時）法話 山内僧侶

○26日（木）文化財防火演習（午前9時）

○28日（土）初不動大祭

稚児行列（お練り）（午後2時）

だるま市 関東各地のだるま屋さんの威勢の良い掛け声が

飛び交い、十万人の人数で賑わいます。

○31日（火）豆煎り式（午前10時）

◇二月

○3日（金）節分豆撒式・だるま市

豆撒式は午前10時から5回。

どなたでも申込みにより年男として参加できます。

又節分会員になっていただき、お札、お供物を受け

ることもできます。

○12日（日）フリーマーケット

○15日（水）お焚き上げ（午前6時・9時）

常楽会（涅槃会）（午後1時法話・2時法要）

お釈迦様が涅槃に入られた日。お釈迦様を追慕し仏

恩に感謝する法要を行います。

法話 赤坂不動尊威徳寺

副御住職 飯島隆貴先生

演題「小僧のはなしを聞いてください」

「私の考える生老病死」

お焚き上げ（午前6時・9時）

○19日（日）ござれ市（がらくた市）

○21日（火）月例写経会（午後1時30分）法話 山内僧侶

○24日（金）千体地藏尊月例法要（午後2時）法話 山内僧侶

○28日（火）月例祭（ご縁日）

一月一日一番護摩のお申込みは 十二月二十九日までお願い致します

新型コロナウイルス感染拡大の状況により諸行事を中止・縮小させていただく場合がありますのでご了承ください。

節分年男のご案内

◇御本尊不動明王の御宝前に於て攘災招福立春大吉の大護摩供を奉修します。年男としてご参列いただきたくご案内申し上げます。

一、日時 二月三日（金）

第一回 午前10時

第二回 午前11時

第三回 午後一時

第四回 午後三時

第五回 午後四時

※各回、七十名限定、先

着申込順と致します。

一、式場 不動堂及び

宝輪閣二階

一、冥加料 金三万円也

※絆は当山でお貸し致します。



節分会々員のおすすめ

◇節分当日は早朝から会員の皆様の七難即滅・七福即生の護摩をご修行致しますので、奮ってご参加下さい。

一、会員には、特別会員（冥加料 一万円）があります。

会 員（冥加料 三千元）

一、当山事務局にて受付し、引替証をお受け取り下さい。

一、立春大吉の護摩札と福豆、供物等をお授け致します。

（参加申込み 二月三日 午後四時まで）



御護摩札の受取場所について

十二月二十九日までに

お申込みいただきました元旦護摩はすべて元旦の一番護摩でご祈願致します。お札のお渡しは午前二時頃からです。

一・二三日 客殿二階洋間

四日以降 宝輪閣地階

当日受付のお札は

宝輪閣地階

大護摩札(三万円以上)は

宝輪閣二階



稚児募集要項

来る一月二十八日(土)の初不動大祭お稚児を左記の通り募集致します。奮ってご参加下さい。

記

一、日時 一月二十八日(土) 午後二時より「おねり」

一、集合 正午までに高幡山本坊(時間厳守)

一、申込 一月二十五日まで

一、冥加料 金七千円也

(お護摩料、お守り札、稚児袋、お供物、衣裳料、化粧料、軽食二人前)

一、年齢 三歳〜七歳位まで

一、ご準備 服装自由(しごき紐・細紐を各一本ご持参下さい)

履物はなるべく草履・足袋をご持参下さい。

◎ほのほうちわ授与

厄除ほのほうちわは元旦から節分までお頒けいたします。一体 五〇〇円也

◎三ヶ日参詣の

駐車場について

今年も左記の方々のご厚意により、三ヶ日の駐車場をお借りできましたのでご利用下さい。

※臨時駐車場ご提供の方々は
東京南農協様・さわやか信用金庫様・食品のおおた様・日野市役所様等の皆様でございます。尚、食品のおおた様は二日まで。

※駐車場には限りがございます。交通渋滞を防ぐ為、出来る限り京王線や多摩都市モノレール等のご利用をお願い致します。

不動堂内お参りの際は下足袋を各自ご用意下さい
ますよう、ご協力をお願い致します。



御護摩札郵送のご案内



大護摩札
30,000円以上
送料 800円
長さ 58cm



中護摩札
10,000円
送料 800円
長さ 52cm



護摩札
5,000円
送料 600円
長さ 45cm



護摩料
3,000円
送料 400円
長さ 37cm



懷中札
3,000円
送料 300円
長さ 11cm



交通安全祈願料
3,000円
送料 300円
長さ 15.5cm

当山では御護摩札を郵送により授与する受付を行っています。

郵送ご希望の方は、必要事項（お名前、お願い事、生まれ年、郵送先住所、ご連絡先等）をご記入のうえ、郵便（葉書、封書等）、又はFAXでお申し込み下さい。御札が届きましたら、同封の払込取扱票で郵便局にてご送金下さい。

お申し込み・お問い合わせは高幡不動尊事務局まで

〒191-0031 東京都日野市高幡733番地

高幡不動尊 護摩札郵送係

電話 042-591-0032 FAX 042-593-3038

※電話、メール、インターネット等でのお申し込みは受付していません。

御札を複数郵送希望の場合、送料の金額が変わります

一月十五日（御護摩修行時）
牛王宝印可

当山では年に一度、重要文化財の不動明王様と同じ木で作られた宝印をお授けし、皆様方の無病息災・息災延命をご祈願しております。



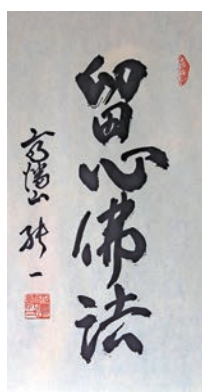
全国名利御貫主

揮毫入り御本尊カレンダー

恒例の全国名利貫主揮毫入り御本尊カレンダー「慈光」ができました。購入希望の方は事務局へお申し出下さい。尚、当山貫主揮毫「遍照」と不動明王像は四月に掲載。

「留心佛法」

仏を仏法に留む、
仏の教えをよりどころとし、専心する。



一部 二、五〇〇円
※ご希望の方には郵送致します。

送料 五百円

第五十一回(十月二十八日～十一月十七日) 高幡不動尊菊まつり

日野市菊友会会長

西野 正人

上位入賞者 (敬称略)

コロナウイルス感染症対策

を行いながら第五十一回高幡不動尊菊まつりが東京多摩菊花連盟・日野市観光協会また多くのボランティアそして何より高幡不動尊のご協力により開催された事に感謝申し上げます。

近年の課題として菊を栽培される方が高齢化し出品数も少なくなり菊栽培愛好家の育成が急務となっています。菊作りは大変ですが、楽しんで自分で無理なく出来る菊栽培を広めて行くのも菊まつりを存続する為の大事な事です。そのためには初心者の方の菊作り講習会を月一程度開催する事も大事かと思っています。

今後とも試行錯誤しながら会員の皆様はじめ多くの方と共に菊まつり開催にむけて頑張ります、今後も素晴らしい菊を出品させて頂きます。



内閣総理大臣賞

- 日野市長賞
切花・間管・彩胡乙姫
八王子市 和田 益男
- 八王子市長賞
盆養・厚走・国華尊格
国分寺市 田口 文夫
- 盆養・三色花壇・国華金山・越山・勲位
八王子市 瀬川 善一
- 立川市長賞
盆養・間管・彩胡優美
立川市 橘
- 府中市市長賞
盆養・ジャンボ福助・国華金山
八王子市 瀬川 善一
- 昭島市長賞
切花・太管・泉郷情熱
日野市 西野 正人
- 小金井市長賞
切花・間管・泉郷富水
八王子市 和田 益男
- 小平市長賞
切花・厚盛・国華伝説
日野市 西野圭永子
- 国分寺市長賞
盆養・細管・彩胡琴姫
立川市 橘
- 東大和市市長賞
切花・厚走・国華聖者
日野市 西野 正人
- 多摩市長賞
切花・新花厚物・彩胡白寿
立川市 橘
- 町田市長賞
切花・新花管物・彩胡優雅
八王子市 和田 清一
- 日野市議会議長賞
盆養・太管・泉郷情熱
立川市 橘
- 全菊連会長賞
切花・太管・泉郷情熱
多摩市 福島 正信
- 高幡不動尊賞
競技花盆養・厚物・国華男山
国分寺市 萩生田 稔
- 大会会長賞
切花・新花管物・彩胡祭典
立川市 橘
- 審査委員長賞
盆養・福助管物・彩胡優美
日野市 西野圭永子
- 理事長賞
切花・新花厚物・国華獅子王
日野市 西野 正人
- 読売新聞社賞
盆養・盆栽地植・紅柳
八王子市 山本 紋子
- 京王電鉄賞
切花・大掴・斗南の月
日野市 西野圭永子
- コニカミノルタ賞
盆養・一文字・玉光院
八王子市 和田 清一
- 東京南農業協同組合長賞
切花・キングサイズ厚物・国華万舞
国分寺市 小峰 由彦
- 日野自動車賞
切花・一文字・玉光院
日野市 志村 進一
- 富士電機賞
切花・キングサイズ管物・彩胡美德
国分寺市 小峰 由彦



高幡不動尊賞

第三十二世貫主 秋山 祐雅 大僧上 三十三回忌

九月八日、当山第三十二世貫主秋山祐雅大僧正の三十三回忌法要が真言宗智山派管長布施浄慧猊下をお迎えし、芙蓉宗務総長、成田山岸田御貫首、川崎大師藤田御貫首、高尾山佐藤御貫首をはじめ諸大徳の御臨席を賜り勤修されました。
大導師をお勤めいただきました布施管長猊下の回向文をご披露させていただきます。

敬つて真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆殊には当山ご本尊大聖不動明王 四大八大諸大忿怒 宗祖弘法大師 中興興教大師 當山代々先師尊靈 総じては佛眼所照 微塵刹土の三宝の境界に白して言さく

本日茲に當山第三十二世貫主 真言宗智山派元管長 総本山智積院第五十九世化主 大僧正秋山祐雅大和尚の第三十三回忌追善法要を現重大僧正杉田純一貫主発願し 勤修せり 小納屈請に預りかつ導首に据えらる 依つて身の曼荼を莊嚴し 六種の供具を備え 一座の尊法を修し奉り 有縁の清衆と共に大和尚の増進佛果を祈らんとす 今謹んで大和尚の大生涯を拝するに その廣大な事跡 余人に勝る想像力 開顯せる世界は筆絶し難し その行跡は枚挙に遑あらざれど 今敢えて回顧し大和尚の大 山影を仰ぎ見ん

大和尚は明治二十八年九月二十五日 西多摩郡福生村秋山家に出生 幼八才にして高幡山金剛寺丸山覚雅僧正の室に入る 十四歳にて名僧朝倉玉雅大僧正に随い得度 以後加行 受戒 入壇 兩大会等本宗教師必須の行位を悉く履修せり 生來の利発 頭腦明哲に恵まれし大和尚は 府立第二中学智山勸学院に遊んで教養知識を蓄積し かつ密教の大系を修得せり 更に選ばれて宗派研修生として京都帝国大学に学び学問の蘊奥を極む 殊には玉雅師の高弟として當山相伝の法流源底を相承し 真言行者の事教二相の資質兼ね備えり よつて華王寺並びに別格本山高幡山金剛寺住職に就任せり 秀でし高德を備えし大和尚は遂に大僧正に昇補す

片や宗政にも諸衆に喝望され当局に登用せられ 戦前戦後の智山派運営に偉大なる足跡を残せり 即ち財務部長 宗務総長 智積院寺務長に就任して戦後混沌たる宗派のあるべき指針を示し 併せて集議席 宗機顧問の重責を担つて 本宗の誤たざる歩みを大局より見護る よつて昭和三十八年に真言宗智山派管長 総本山智積院第五十九世化主として推戴せられたり 満場一致 歓喜の中に迎えらるると往時の模様を後世に至るまでその慶事を伝う まさに大和尚の高徳のしからしむるところなり在任中智積院会館を建立して新時代の教化の発信地と定め 永年復興を望まれた金堂の再建の端緒を開らしたるは 智山派新時代の骨格を築きたるものなり

宗外にありても大和尚に寄せる期待の念厚く 南多摩仏教会長 大正大学理事長 全日本佛教会副会長を初めとし 出ては保護司関連機関の役職を歴任し その目的達成の為に日夜精力を傾注せらるよつて 大臣表彰 藍綬褒章 勲五等双光旭日章の叙勲の榮に輝けり

寺門興隆にも名利金剛寺の整備復興新築等戦後復興の大事業を含め 着手せる諸工事は二十四余の事業に昇る 今日この当山の輪奐の美を築きたるは大和尚上一代の快挙なり 如何に本尊に帰依し 自ら奴僕行に徹せるか敬嘆あたわざるところなり

今伏して省れば大和尚は小納入壇灌頂の 大阿闍梨にして しかも正受者として吾れに両部の秘印明を印可せられたり これ小納生涯忘れ得ぬところ 無上の誇りとす 以後大和尚の慈眼に接し 薰陶を受けること無量なり しかるに未だもつて衆中の糟糠 天令のみ高けれど亜羊の質をもつて猥しく 獅子の座を汗す小僧 ここに恩愛ある大和尚の追善の導首にあることを恥ず 只管三十三回忌尊虚空蔵菩薩の智剣宝珠の功德に頼り上りて 大和尚の佛果増進を祈念するのみ 目を伏せば 豪放磊落 單刀直入 職務厳正 無欲恬淡 慈悲寛大 筆勢豪氣 文章高潔 等具備せる 大和尚の尊容 彷彿と目の当り感じ想起つつ 敬つて白す

維時 令和四年九月八日

真言宗智山派管長
総本山智積院化主第七十二世

大僧正 布施 浄慧 敬白

山内消息

中学生職場体験 (9/20～23)

八王子市立打越中学校の生徒さん六名が来山し、三日間の職場体験にてお寺の仕事を手伝いいただきました。

境内の落葉清掃にはじまり御護摩札の水引作り、写経の準備等、様々なお仕事をこなしていただきました。

秋彼岸会法要 (9/23)

午前七時、大日堂にて秋彼岸会法要を勤修し、続いて高幡山遍照講の皆様「彼岸会和讃」をお唱え頂きました。当日は台風が関東に接近する中でしたが、無事にお勤めできました。(伊大知記)

おみがき (9/26)

仏具のおみがきを高幡山遍照講の皆様にお手伝い頂き、千体地藏堂にて行いました。毎日御護摩にて使用している仏具が磨き終った後は、顔が映る程輝きを取り戻していました。(柳原記)

お花講総会 (9/28)

お花講総会が三年ぶりに行

われ、約八十名の講員が総登嶺しました。当日は服部先生の御法話の後、僧侶と共に参道をお練りし、不動堂にて大般若経転読付大護摩供法要に参列されました。講員同士久しぶりの再会とあって、談笑したり、互いに信仰の絆を深め、来秋の再会を誓い合っていました。(小澤記)

秋季大祭記念法話 (9/28)

真言宗智山派教化部長、飯能市観音寺御住職、服部融亮先生をお迎えし、秋季大祭記念法話を開催致しました。

ご法話では「明治の紫式部」ともいわれる歌人、税所敦子さんの「仏にもまさる心と知らずして鬼婆なりと人は言うらむ」などの代表的な歌をまじえて、相手を思いやり、自



服部先生のご法話

分自身の心や行ないを見つめ直すこと、世界が様々な困難に直面している今だからこそお互いに尊重する「つくしあい」の精神の大切さをお話し下さいました。(百戸記)

弘法大師ご誕生一二五〇年

慶讃開白法要 (10/5)

来年六月にご誕生一二五〇年を迎える宗祖弘法大師様の慶讃記念事業のはじまりである開白法要が総本山智積院にて勤修され、当山貫主が参列しました。

法要は真言宗智山派管長、布施化主親下を導師に仰ぎ、集議菩提院結衆の諸大徳が職衆としてご出仕され、小峰前管長親下、成田山、川崎大師、高尾山の御貫首様をはじめ多くの方々が集い、お大師様のご誕生一二五〇年をお祝いしました。(五十嵐記)

仏前結婚式 (10/8)

当山職員の佐竹智照氏と四十谷智美さんの結婚式が大日堂に於て執り行われました。ご両家親族が列席のもと、

厳肅な中に式が進み、御本尊様、御先祖様へ二人が巡り会



誓い新たに 結婚式

えたご縁に感謝し、苦楽を共に乗り越え、幸せな家庭を築くよう誓いました。(松本記)

得度式勤修 (10/12)

貫主戒師のもと大日堂を道場に正楽院ご子息、佐藤佑龍九才、佐藤羽寿七才の得度式が執り行われました。

得度式とは僧侶になる為の最初の儀式で、髪を剃髪し、仏弟子としての僧名と袈裟を授かり、戒律を受ける法要です。当日二人は師僧、親族の見守る中、緊張しながらも、しっかりとした態度で式に臨み、長時間に及ぶ得度式を無事に終えることができました。(清水順記)

茶筌供養 (10/16)

コロナの影響により中止し

ておりました茶筌供養付裏千家淡交会第八西支部懇親茶会が三年ぶりに開催されました。当日は貫主導師のもと淡交会第八西支部役員の方々にご参列をいただき、茶筌供養と共に茶道隆盛、同門繁栄をお祈りしました。(清水順記)

弘法大師ご誕生慶讃法要 (10/23)

宗祖弘法大師ご誕生千二五〇年記念慶讃東京ブロック法要が総本山智積院にて、川崎大師平間寺藤田御貫首お導師のもと、東京・神奈川・山梨教区の出仕により勤修され高尾山薬王院佐藤御貫首と共に当山貫主が随喜しました。(佐竹智記)

ご詠歌講習会・検定会 (11/1)

密厳流遍照講東京多摩教区連合会の講習会・検定会が行われ、講師に密厳流指導師範佐竹義文先生、検定員に同じく指導師範の林智宏先生をお迎えしました。

講習では「弘法大師誕生和讃」「施餓鬼供養和讃」をご教授いただき、検定では七名が受験し、見事全員合格致しました。

奥殿だより 第二回

「涅槃図」の 修復について

奥殿には様々な文化財を展示しております。令和二年十月二十八日に現在のような展示形態に大幅な変更を致しましたが、その後も正五九（正月、五月、九月）大祭などの諸行事に併せて、部分的な展示替えをたびたび行っております。

観覧された方々からも、「いつも違う展示を見る事が出来て楽しい。」とか「初めて見るものがありました。こんなものも所蔵していたんですね。」などの声が寄せられております。

令和二年より始めた所蔵文化財の整理事業の過程で、展示して皆様に紹介したい文化財が多く確認されております。それらを使って、部分的な展示替えを行ってきております。ただ、古くより使用されてきたために、皆様に紹介したくても状態が悪く、保存修復しないと展示できないものも数

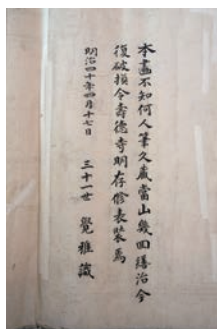
多くあります。当山の所蔵品には、特に掛軸や巻物に表装されている書画や経巻が多くありますが、その保存修復作業には長い時間と多くの経費を必要と致します。

現在、二月十五日の涅槃図に掲げられる「涅槃図」が保存修復作業中です。今回から、数回にわたりその作業を紹介していきたいと思います。それとともに、膨大な時間と経費を要する保存修復事業に対するご理解とご支援を皆様にお願ひ申し上げたいと思ひます。



涅槃図（平成三十年撮影）

涅槃図背面記載の修理記



度は表装を直します。

今回取上げる涅槃図は、前回の修復が明治四十年（一九〇七年）です。第三十一世 覺雅和尚の時です（涅槃図修理記参照）。既に百十五年が経過しており、表装を直すすべき時期になっております。しかも表面から見ただけでは分りにくいのですが、長い年月使用されている間に、折れや裂れを生じておりました。

裂れた部分 表面より



裂れた部分 背面より



掲載した写真は、涅槃図下部中央の獅子の頸部に見られる裂れの状況です。このまま使用していくとどんどん裂れている部分が拡大していき、近い将来断裂してしまいます。

また、折れも沢山あり、折れ伏せ（折れあて）も多数見られます。涅槃図修理記写真に見られる細い白い紙がそれで、明治の修理の際なされたものです。修理後も多数の折れが生じておりますが、折れがだんだんひどくなるとそこから裂れていくことになりました。涅槃図の修復は、もう待ったなしの状況になっていたわけです。

その為、当山では急遽、保存修復作業を実施することを決定し、実施することにしたわけです。

次回から、涅槃図の保存修復作業の紹介をしながら、掛軸表装とはどのようなものかについても、皆様に知っていただければと思っております。また掛軸保存上の留意点などについてもご紹介をし、掛軸をご所蔵の皆様が参考にしていただければと思ひます。

（藤井和夫記）

高幡いきもの曼荼羅 ②1

高幡不動尊の境内は日野市の七生丘陵の一角に位置し、水に恵まれた自然豊かな地であります。ところがここ数年、裏山に赤く枯れた木が目立つようになりました。病原菌とそれを媒介する昆虫が原因の「ナラ枯れ」という現象です。昔のように里山の木を伐採して利用することが無くなったために、木々が虫の害を受けやすくなっているのだそうです。

また昨今の度重なる大雨で、僅かながら裏山の土砂が流れ下ることが増えており、下流にあたる弁天池等の水質悪化も懸念されます。このように一見平穏に見える境内に於いても、環境が徐々に変化しているのです。

四季折々に見る境内と裏山の美しさは、私達に本当に安らぎを与えてくれます。特に春の芽吹きや秋の紅葉の頃になると山々がいろんな色彩に溢れ、生きた曼荼羅のように変化します。しかしそんな「山笑う」「山粧う」状態は自然の絶妙なバランス上に存続しているに過ぎません。

持続可能な社会を目指すのであれば、人にとって生命の拠り所となる自然環境を大切にしたいものです。自然への畏敬の念こそが信仰の原点ではないでしょうか。



山笑う



茶色くなったナラ枯れの木



山粧う

なにげなくつかっている仏教のことば——舍利（しやり）

皆さんが好きなお寿司、上に載るのは寿司ダネ（ネタ）、下の酢飯はシャリと呼ばれています。精米し磨き上げられたお米粒は、まさに銀舍利と称するに相応しい、美しい輝きを放っています。舍利とはサンスクリット語の

シャリーラの音写で、遺骨の意です。特にブッダの遺骨は仏舍利と称され、仏舍利から放たれる威光は、今も多くの人々に安寧を与え続けています。

シャリーラの音写で、遺骨の意です。特にブッダの遺骨は仏舍利と称され、仏舍利から放たれる威光は、今も多くの人々に安寧を与え続けています。日本にも多くの仏舍利が存在していますが、ブッダの真骨としてみられます。（小林靖典）

お不動さま教えて？

ご質問 五重塔地下の休憩所に掲げられているお釈迦さまのレリーフについて教えてください。

（前号のつづき）

お答え はい、お答えします。

五重塔地下の休憩所にある十枚目のレリーフは《苦行》です。

出家を果たしたシッダールタは、

マガダ国の都の王舎城にたどり着きます。当時のインドにおける文化の一大中心地であった王舎城には、多くの思想家や修行者が集まっていた。

シッダールタはアーラータ仙とウドラカ仙に順に師事し、前者からは無所有処定（一切の執

着を離れた境地に至る瞑想）を、後者からは非想非非想処定（無所有処定の境地をさらに超えた境地に至る瞑想）の指南を受けました

が、短期間のうちに師と同等の境地に達し、いずれも自身が求めている真のさとり境地ではなかつ



乳糜

養 獨り尼連禪河へと行 苦行の垢を落として 身体を浄め、岸边にて村娘のスジャータ



苦行

た、さとり境地に至ることができず、いたずらに身心を損なうだけで無意味であると知ったシッダールタは、苦行を捨て

から乳粥の供養を受けました。その場面を描いたのが、十一枚目の《乳糜供養》のレリーフです。レリーフをよく観察すると、木々の向こうに尼連禪河の流れが描かれているのが解ります。

（次号につづく）

たことから、ほどなくシッダールタは両師の元を去り、尼連禪河ほとりの静寂な森に移ったのでした。

その地でシッダールタは、六年もの間、あらゆる苦行を試みまし

た。苦行の中でも特に厳しいものは断食行で、そのときのシッダールタの姿は、まさに五重塔のレリーフのごとくに痩せ細った姿であ

ったと思われます。

このレリーフには、五人いたとされる苦行仲間の一部も描かれています。

苦行によってもまた、さとり境地に至ることができず、いたずらに身心を損なうだけで無意味であると知ったシッダールタは、苦行を捨て

高幡不動産



- 正月参拝の方は京王線・多摩モノレール・バスをご利用下さい。